



週間情報



No.0805

発行日 令和8年2月3日

発行所 全国消防長会
一般財団法人全国消防協会

担当 企画部企画課 03-4500-6622

両会の動き

◆ 「消防職員惨事ストレス研修会」を開催

宮崎県消防長会（宮崎）

宮崎県消防長会では、令和8年1月21日（水）、一般財団法人地方公務員安全衛生推進協会にご協力いただき、「消防職員惨事ストレス研修会」を開催しました。

当日は、県内の職員など64人が参加し、総務省消防庁緊急時メンタルサポートチームメンバーとしてご活躍されている、兵庫県こころのケアセンター特別研究員の大澤智子氏を講師としてお招きし、これまでの豊富な経験に基づき、惨事ストレス対策、日常のメンタルヘルスケア、ハラスメント対策についてご講義いただきました。

この研修会を通じて、ハラスメントの判断基準や時代の変化に合わせた指導の必要性など、部下指導におけるコミュニケーションのポイントについて詳しく学んだほか、良好な人間関係が惨事ストレスの軽減につながるといった、組織管理の重要性について理解を深めることができ、大変有意義な機会となりました。

今後も、宮崎県消防長会として、県内消防本部の良好な職場環境の構築に努めてまいります。



【研修会の様子】

消防本部の動き

訓練

◆ 県内3消防本部合同で「第1回消防救助技術研究訓練会」を開催

大船渡地区消防組合消防本部（岩手）

大船渡地区消防組合消防本部では、令和8年1月20日（火）、一関市消防本部および陸前高田市消防本部と合同で、「第1回消防救助技術研究訓練会」を開催しました。

この訓練会は、各消防本部の管内で発生が想定される大規模災害や複雑な特殊救助事案に備えるため、安全かつ確実な救助活動能力の向上を図ることを目的として開催したものです。

当日は、「高さ18メートルからの引揚げ救助」、「幅25メートル、高さ10メートルの中州救助」との2想定で、実災害を見据えた実践的な内容で真剣に取り組み、日頃の訓練成果を発揮しました。

また、他消防本部の救助手法や活動要領を確認・共有し、今後の災害対応力の向上につなげることができました。



【訓練の様子】

◆ 国指定重要文化財において火災防ぎょ訓練を実施

松山市消防局（愛媛）

松山市消防局では、令和8年1月8日（木）、文化財防火デーを迎えるに当たり、国指定重要文化財である「渡部家住宅」において、火災防ぎょ訓練を実施しました。

当日は、関係機関が役割分担し、火災発生時における初動対応での確な活動を展開したほか、外国人観光客向けの多言語フリップボードを活用し、有効な避難誘導を行うことができました。

今後も、地域の宝である「渡部家住宅」を火災から守るため、関係機関や周辺住民との連携強化を図るとともに、市民の文化財に対する防火意識の向上に努めてまいります。



【訓練の様子】

研 修

◆ 「令和7年度警察消防合同研修会」を開催

湖南広域消防局（滋賀）

湖南広域消防局では、令和8年1月15日（木）、西消防署において、滋賀県警察本部草津警察署と「令和7年度警察消防合同研修会」を開催しました。

この研修会は、警察・消防が有する専門的な知識および技術を共有するとともに、災害への初動対応能力の向上と連携強化を図ることを目的として開催したものです。

当日は、警察・消防職員計48人が参加し、「滋賀県警察ヘリコプターとの連携」と「傷病者の観察要領」について相互に講義を行い理解を深めたほか、講義後にグループディスカッションを行い、有意義な研修会となりました。

今後も、災害に備えるため、警察・消防が連携し、顔の見える関係を構築してまいります。



【研修会の様子】

◆ 「ハラスメント防止研修」を実施

大雪消防組合消防本部（北海道）

大雪消防組合消防本部では、令和8年1月16日（金）、管理職を対象とした「ハラスメント防止研修」を実施しました。

当日は、対面とオンラインを組み合わせる研修を行い、株式会社インソースの松川修氏を講師としてお招きし、リスクマネジメントに基づくハラスメント防止について、民間企業での管理職経験談を交えながらご講義いただきました。

また、グループワークを通じて、「指導」と「ハラスメント」の違いについてご指導いただき、管理職としてハラスメントがもたらすリスクを正しく理解するとともに、職場の心理的安全性を高めるための適切なコミュニケーションを学ぶことができました。

今後も、本研修で学んだことを生かし、組織全体におけるハラスメント防止はもちろんのこと、誰もが働きやすい環境づくりに努めてまいります。



【研修の様子】

そ の 他

◆ 救急支援システムの運用を開始

郡山地方広域消防組合消防本部（福島）

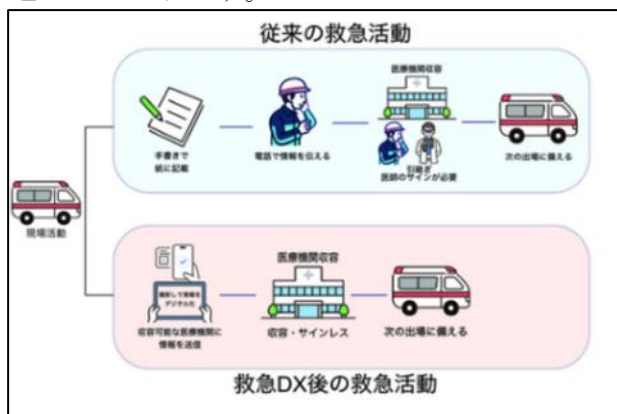
郡山地方広域消防組合消防本部では、令和8年1月13日（火）、新たな救急支援システムの運用を開始しました。

このシステム運用は、従来の救急業務にICT技術を取り入れ、業務の効率化を図るとともに、救急業務全体の時間短縮につなげることを目的として開始したものです。

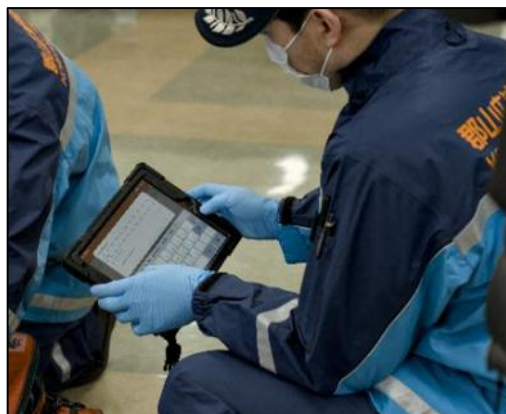
このシステムは、既存の情報端末（タブレット、スマートフォン）に同システムアプリをインストールし、光学文字認識機能（OCR）、音声入力機能、画像送信機能を活用して、医療機関とリアルタイムに情報共有することで、質の高い情報提供、ミスコミュニケーションのリスク軽減、レスポンスタイムの短縮につながることが期待されます。

また、同システムは、救急報告書システムと連携していることから、事務処理を含めた業務全体の効率化につながり、救急隊員の労務負担軽減が見込まれます。

今後は、同システムに対応する医療機関との連携強化を図るとともに、安定したシステム運用を推進してまいります。



【運用開始による変更点】



【タブレット活用の様子】

◆ 他機関と合同で緊急通報用連絡先の周知イベントを開催

千葉市消防局（千葉）

千葉市消防局では、令和8年1月16日（金）、千葉市役所において、千葉県警察本部と海上保安庁千葉海上保安部と合同で、緊急通報用連絡先（警察の「110番」、海上保安庁の「118番」、消防の「119番」）の周知イベントを開催しました。

このイベントは、近年、救急出動件数や119番などの緊急通報件数が増加していることから、緊急通報用連絡先の適正利用推進と認知度の向上を図るとともに、「救急安心電話相談（＃7119）」や令和6年に運用を開始した「映像通報システム（Live119）」の普及促進を図ることを目的として開催したものです。

当日は、各機関の車両（パトカー、白バイ、水上バイク、消防車）の展示、子供用活動服の着用体験、リーフレットなどの配布を行いました。

今後も、3機関で連携し、組織の垣根を超えた広報活動に努めてまいります。



【イベントの様子】

報道発表

◆ 林野火災に注意してください！

ー東日本太平洋側や西日本では、顕著な少雨となっている所がありますー

(令和8年1月22日、気象庁、消防庁、林野庁)

- 東日本太平洋側や西日本の広い範囲で、降水量がかなり少ない状況になっています。12月末からの4週間の降水量は、この時期として30年に一度程度の顕著な少雨となっているところがあります。今後1か月程度は、まとまった降水にはならない見込みです。
- 記録的な少雨になった令和7年は、冬から春にかけて大規模な林野火災が全国的に多く発生しました。少雨となっている地域では、林野火災予防のため、火の取り扱いに十分注意してください。
- 林野火災の原因の多くは人の手によるものです。特に市町村により林野火災警報・林野火災注意報が発令されているときは、屋外での火の使用を控えてください。
- 少雨に関する概要や林野火災予防のための留意事項を別添のとおりお知らせします。

ー以下省略ー

- 全文は、消防庁ホームページ

(https://www.fdma.go.jp/pressrelease/houdou/items/260122_soumu_01.pdf) に掲載されています。

＜本件に関する問合せ先＞

(気象の状況に関すること)

気象庁大気海洋部気候情報課 及川

代表：03-6758-3900 (4548)

直通：03-3434-9123

(林野火災予防に関すること)

消防庁特殊災害室 広富、緑川

直通：03-5253-7528

(森林に関すること)

林野庁森林整備部研究指導課保護企画班

代表：03-3502-8111 (6214)

直通：03-3502-1063

情報提供

◆ 救急普及啓発広報車の寄贈について

一般財団法人救急振興財団

一般財団法人救急振興財団では、消防機関が行う応急手当の普及啓発活動を支援するため、一般財団法人日本宝くじ協会から助成を受け、平成3年度から救急普及啓発広報車の寄贈を行っています。

令和7年度は、尾花沢市消防本部（山形県）、湯浅広川消防組合消防本部（和歌山県）、杵藤地区広域市町村圏組合消防本部（佐賀県）、島尻消防組合消防本部（沖縄県）の4団体に救急普及啓発広報車を寄贈しました。

救急普及啓発広報車は、消防機関が開催する救命講習会や救急フェアなどの各種イベントで幅広く活用されています。

この車両は、機動的かつ効果的な運用ができるよう普通車（ワゴン）タイプで製作し、車両デザインについては寄贈先に複数デザインから選択いただける仕様としています。

救急普及啓発広報車には、心肺蘇生訓練用人形、AEDトレーナー、119番通報訓練装置などの各種訓練資器材のほか、屋内外での多様な広報活動に対応するため、持ち出し可能なプロジェクター、スクリーン、マイク、スピーカー、外部取り付け可能な大型液晶モニターなどを搭載し、車体には容易に展開できるオーニングを架装しています。

「命を大切に思う」、「困っている人を助けたい」といった善意に基づいて、正しい知識と技術をもって、ためらわずに応急手当を行うことができる社会が望まれます。そのような社会を創生していくためにも、救急普及啓発広報車を有効活用し、地域住民に対する応急手当普及啓発推進の一助としていただくことを期待しています。



【尾花沢市消防本部（山形県）】



【湯浅広川消防組合消防本部（和歌山県）】



【杵藤地区広域市町村圏組合消防本部（佐賀県）】



【島尻消防組合消防本部（沖縄県）】

※ お知らせ

消防本部所在地に変更がありましたので、ご連絡いたします。

【消防本部コード 73502】 倉敷市消防局

- 1 所在地
〒710-8565
岡山県倉敷市西中新田640番地 防災危機管理センター2階
- 2 移転日
令和8年2月2日（月）
- 3 その他
組織体制および電話番号の変更はございません。

機関誌「ほのお」記事募集

一般財団法人全国消防協会では、機関誌「ほのお」に関して、各消防本部より次の投稿記事を募集しています。

①トップ・セカンド記事

②知識・技術の伝承—教えて！消防技術—

③女性職員の活躍推進

※①・②・③の執筆要領等の詳細は、週間情報（No.0716）1ページ、機関誌「ほのお」2025年4号（4／25発刊）29ページを参照願います。

TEL：03-4500-6622 機関誌「ほのお」担当：企画課 中西

原稿データは、kikakoho@fcj.gr.jpに送信願います。

④消防ワイド

【特徴】

- ・写真中心のビジュアルな広報
- ・紙媒体により記録性に優れる広報

【留意事項】

- ・文章は、Wordで100文字程度で作成をお願いします。
- ・写真は、Wordに貼り付けず、JPEG画像データを1枚送付してください。
- ・消防ワイド、週間情報の両方に投稿された場合、どちらか一方のみの掲載となります。

TEL：03-4500-6622 機関誌「ほのお」（消防ワイド）担当：企画課 中西

原稿データは、honoo@ffaj-shobo.or.jpに送信願います。

ご投稿をお待ちしております。

※添付ファイルの容量が5MBを超える場合は、分割して送信願います。

消防本部の“今”を「週間情報」へ

～身近な出来事、旬な情報を週間情報で発信しませんか？～

週間情報では、各消防本部の身近な情報を掲載していますので情報をお寄せください。

【特徴】

- ・原則毎週刊行される、速報性のある広報
- ・文章中心の情報量が多い広報

【留意事項】

- ・配信日（原則火曜日）から前2週間以内のイベント、訓練等を中心に掲載しています。
- ・文章は、Wordで200～400文字程度で作成をお願いします。
- ・写真は、1～2枚をWordに貼り付けて送付してください。
（貼り付けできない場合は、JPEG画像データを送付してください。）
- ・週間情報、消防ワイドの両方に投稿された場合、どちらか一方のみの掲載となります。
- ・掲載が決定した場合のみ、担当者からメールを返信させていただきます。

TEL：03-4500-6622「週間情報」担当：企画課 吉田

原稿データは、weekly@fcaj.gr.jpに送信願います。